

2. 事業の概要と成果

<p>(1) 上位目標の達成度</p>	<p>おおむね達成</p> <ul style="list-style-type: none"> チームへの「土のう工法」を用いた道路補修トレーニングを実施し、4,925mの未舗装道路が補修され、住民の生活道路の通行性が確保された。 道路補修のインパクトをフォローアップミーティングで参加者から集約したところ（年間を通じた病院・学校等への公共機関へのアクセスが確保された、公共交通機関の料金が下がった、農作物の運搬ロスが減った等の効果が確認された。 																																																															
<p>(2) 事業内容</p>	<p>活動1 農民組織の支援を通じた「土のう工法」による道直しの実施（7グループ）</p> <p>活動2 生産組合に対して行う「土のう工法」による道直しの推進（7組合、8グループ）</p> <p>活動3 若者グループに対して行う雇用創出と自立支援に向けた道直しの実施（4カウンティ、23グループ）</p> <p>活動4 コントラクター資格取得のための講習への参加（政府側からの資金提供が滞っているため期間内には実施せず）</p> <p>活動5 「土のう」工法の普及と実演セミナー開催（ナイロビ）</p>																																																															
<p>(3) 達成された効果</p>	<p>活動1 農民組織の支援を通じた「土のう工法」による道直しの実施</p> <p>1-1 農民組織の運営支援 本事業のフェーズ1から支援を継続してきた農民組織 URDA の会社組織「ファイブインワン」は、現在、コントラクターとしての登録手続き中である。サブグループの中には独自でコントラクターとして活動を希望したグループもあり、現在6つの会社組織が登録されている。トレーニング実施後、各グループが地元で自主的に小規模な道路整備を行ったほか、ウアシングシユカウンティからの入札事業、選挙区開発資金による請負事業など、3組織が地方行政からの事業を実施した（添付資料2表1）。</p> <p>1-2 農民組織の支援を通じた道直しの実施（ウアシングシユカウンティ） 計7グループ（参加者175名）に対して5日間ずつのトレーニングを行い1,008mの距離を補修した。（表1）。雨期が明けた9月にフォローアップを行った。</p> <p>表1 農民組織に対して行った道直しトレーニング（ウアシングシユカウンティ：各5日間実施）</p> <table border="1" data-bbox="464 1451 1417 1816"> <thead> <tr> <th></th> <th>サブカウンティ</th> <th>実施日</th> <th>グループ名</th> <th>補修距離(土のうの使用)</th> <th>人数(人)</th> <th>側溝整備(m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ソイ</td> <td>12月2-6日</td> <td>エベソII</td> <td>167</td> <td>25</td> <td>156</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>モイベ</td> <td>12月2-6日</td> <td>フォーエバーユース</td> <td>85 (35)</td> <td>25</td> <td>208</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ケセス</td> <td>1月27-31日</td> <td>オレンゲセ（ターチェスカサラニ）</td> <td>314</td> <td>25</td> <td>610</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ケセス</td> <td>2月3-7日</td> <td>チュイヤットユース</td> <td>154 (60)</td> <td>25</td> <td>474</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ソイ</td> <td>2月24-28</td> <td>クィネットプログレスユース</td> <td>68</td> <td>25</td> <td>400</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>モイベ</td> <td>3月3-7日</td> <td>スポーディアユース</td> <td>106 (44)</td> <td>25</td> <td>300</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>アイナブコイ</td> <td>3月24-28日</td> <td>ユニバーサルエンパワーメントユース</td> <td>114 (56)</td> <td>25</td> <td>340</td> </tr> <tr> <td colspan="4">合計 7グループ</td> <td>1,008m</td> <td>175人</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>なお本事業の3年間を通して行った農民組織に対する「土のう」トレーニングは、29のサブグループを対象に43回で補修距離は5,891mであった（別添資料2表1）。</p> <p>活動2 生産組合に対して行う「土のう工法」による道直しの推進 コーヒー、紅茶等の7つの生産組合8グループ（204名）に対し、生産工場と主要国道をつなぐ農村道路等で「土のう工法」を用いた道直し研修を行い954.4mを補修した（中間報告、添付資料表2）。 なお生産組合に対する道直し支援は、昨年（フェーズ2）から行い、2年</p>		サブカウンティ	実施日	グループ名	補修距離(土のうの使用)	人数(人)	側溝整備(m)	1	ソイ	12月2-6日	エベソII	167	25	156	2	モイベ	12月2-6日	フォーエバーユース	85 (35)	25	208	3	ケセス	1月27-31日	オレンゲセ（ターチェスカサラニ）	314	25	610	4	ケセス	2月3-7日	チュイヤットユース	154 (60)	25	474	5	ソイ	2月24-28	クィネットプログレスユース	68	25	400	6	モイベ	3月3-7日	スポーディアユース	106 (44)	25	300	7	アイナブコイ	3月24-28日	ユニバーサルエンパワーメントユース	114 (56)	25	340	合計 7グループ				1,008m	175人	
	サブカウンティ	実施日	グループ名	補修距離(土のうの使用)	人数(人)	側溝整備(m)																																																										
1	ソイ	12月2-6日	エベソII	167	25	156																																																										
2	モイベ	12月2-6日	フォーエバーユース	85 (35)	25	208																																																										
3	ケセス	1月27-31日	オレンゲセ（ターチェスカサラニ）	314	25	610																																																										
4	ケセス	2月3-7日	チュイヤットユース	154 (60)	25	474																																																										
5	ソイ	2月24-28	クィネットプログレスユース	68	25	400																																																										
6	モイベ	3月3-7日	スポーディアユース	106 (44)	25	300																																																										
7	アイナブコイ	3月24-28日	ユニバーサルエンパワーメントユース	114 (56)	25	340																																																										
合計 7グループ				1,008m	175人																																																											

間でのトレーニングは7組合（13グループ330人）を対象に13回、施工距離は1853.6mであった。

活動3 若者グループに対して行う雇用創出と自立支援に向けた道直しの実施

4つのカウンティ政府と連携し、地域の若者グループに対する「土のう工法」を用いた道直し研修を行った（表2）。メルー、バリンゴ、キリニャガの3つのカウンティからは、トレーニングに必要なマラム土の全量が供給されたため、それぞれ2グループの若者グループを追加しトレーニングを行った。23グループ（555名）に対してトレーニングを行い、2,963mを補修した。キリニャガカウンティでは2つのグループに対し、トレーニング終了後カウンティの負担で道路補修が継続され、新たにコンクリートのカルバートが設置されるなどカウンティ側の協力が得られた。

表2 若者グループに対して行った道直しトレーニング（各8日間実施）

カウンティ	サブカウンティ	実施日	グループ名	補修距離 (m)	人数 (人)	側溝 (m)	
1 2 3 4	エルゲ ヨ マラク エツト	マラクエツトイー	1月14-22日	テンカスリーユー	87.5	25	187.5
		マラクエツトウエ スト	1月14-22日	カセチエユース	51	25	120
			2月11-19日	チエバイキブケン グユース	274.6 (107)	25	550
			2月10-19日	キブソエニユース	193	25	210
5 6	バリン ゴ	バリンゴノース	4月14-25日	カバルトンジョーモイ	168	25	340
		バリンゴセントラル	4月23-5月5日	サテカユース	142	25	245
7 8	(カウン ティが マラム 土を供 給)	エルダマラビン	5月20-31日	エルダマラビンユース	148	25	410
		テイアティ	5月27-6月4日	チエイオユース	158	25	330
9 10		モゴティオ	10月9-18日	モゴティオユース	130	25	-
		マリガット	10月8-17日	スリーエムアイユース	128	25	148
11 12 14 15 16 17	メルー (カウン ティが マラム 土を供 給)	ブリ	1月22-31日	トラスティドハン	204	25	239
		サウスイメンティ	1月22-31日	ミグンギキ	160	25	344
		ティガニアイーシ	2月19-28日	テウマニユース	178	25	210
		イグムベ	2月26-3月6日	カスタレヘユース	90	26	120
		イグムベサウス	5月21-30日	ンジラムベンゲゼ	100	28	500
		ノースイメンティ	5月21-30日	ガイキユース	72	26	144
18 19 20 21 22 23	キリニ ャガ (カウン ティが マラム 土を供 給)	サガナ	6月10-20日	カヒロユース	123	25	354
		ムエア	7月23-8月5日	キティリティユー	142	25	245
		ムエア	7月22-31日	カンガイユース	65.8	25	-
		ムエア	8月19-29日	マルラビーユース	90	25	-
		ムエア	9月8-17日	ニャンガイユース	120	25	-
		キリニャガセント	9月30-10月3日	カモンドユース	138	25	-
合計 4カウンティ (23グループ)				2,963m	555人		

活動4 コントラクター資格取得のための講習への参加

3月に実施したワークショップで、ケニアの道路行政の最高責任者であるカマウ長官より、コントラクター資格取得のための受講料をケニア政府が負担するとの確約を得て、キシイトレーニングセンターを含む政府関係機関とのミーティングを重ねてきたが、現在まで予算の執行はなされていない。今後とも関係者に対しミーティングの開催等、実施に向け働きかけてゆく。

グループの代表者を講習へ参加させることはできなかったが、トレーニングを終えた10グループが自主的に道直し活動や会社登録等（9組織）の活動を行っている（表3）。

表3 トレーニング後のグループの活動状況（会社登録、事業取得等）

* 第3フェーズで、11グループが10会社組織を登録

カウンティ	グループ名	活動内容（会社登録状況）	
1	ウアシン ギシ ユ	エベソII	
2		ユニバーサルエンバ ワメントユース	<ul style="list-style-type: none"> グループメンバー20名が20mの道を補修（5-7月） CATCOM Construction Co. Ltd を登録（4月） ウアシンギシユカウンティの入札事業、側溝清掃、道路わきの除草作業 Ksh 317,874 を実施（6月） リフトパレー職業訓練校へ建設資材の搬入（6月:1年間）
3		スポーディアユース	<ul style="list-style-type: none"> SAMCHEL Co.Ltd を登録（4月） グループメンバー6人が、側溝を修繕100m（8月）

	4	クイネットプログレスユース	<ul style="list-style-type: none"> ● KULOVIC COMPANY LIMITED を登録(5月) ● ウアシンギシュカウンティの入札事業、側溝清掃、道路わきの除草作業 Ksh 330,000 を実施 (6月)。
	5	ターチェシスカサラニ (オレンゲセ)	<ul style="list-style-type: none"> ● JABECO COMPANY LIMITED. を登録(5月) ● ウアシンギシュカウンティの入札事業、側溝清掃、道路わきの除草作業 Ksh 330,000 を実施 (6月)
	6	マラクエット	<ul style="list-style-type: none"> ● CHIYOUG Construction Ltd. を登録(4月) ● グループメンバー25名がボランティアで「土のう」を使い2.5kmのうち200mを修繕(6月)
	7	カセチェユース	<ul style="list-style-type: none"> ● KASECHE Construction Ltd. を登録中グループメンバー10名が、1kmをボランティアで修繕 (5日間4月)
	8	テンカスリーユース	<ul style="list-style-type: none"> ● グループメンバー20名が、5km農地の50mで側溝を修繕(5月)。(カセチェユースとともに会社組織を登録中)
	9	キブソエンユース	<ul style="list-style-type: none"> ● BOLLARIS Building & General contractors Ltd. を登録(3月) ● カウンティへマラムを供給 (2週間)
	10	パリango	サテカユース
	11		カバルトンジョーモイ
	12		HEWODI Enterprises を登録
			エリウダマラビユース
			KWEPMO Building Contractor を登録
	13	キリニャガ	キティリティユース
	14		カンガイユース
			カウンティが経費を負担し、施工を継続 (8日間)
			カウンティが経費を負担し、施工を継続 (30日間)
	<p>活動5 「土のう」工法の普及と実演セミナー開催 (ナイロビ)</p> <p>2014年3月17日に、森公使、山名書記官にご来席いただき、ナイロビにて「土のう工法」のデモンストレーションを含んだワークショップを行った。これによって、政府側に対して「土のう工法」の有効性の認識をさらに深める事ができ10月のナイロビショー（農業関係の展示会）で紹介された。また、ケニア国での正式な道路補修方法として、インフラ交通省のデザインマニュアルへ掲載を目指し、そのための手続きを行っている。</p> <p>○上位目標に対する成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 本事業を通じた直接裨益者数： 934人 ● 間接裨益者数： 38ヶ所×周辺住民2千人=7.6万人 ● その他（フォローアップで行ったミーティングで行った、道直し後の生活の変化の実感調査より） <p>①公共施設へのアクセス（診療所、教会、学校、家畜の薬浴施設、牛乳、茶葉、野菜の集荷場、ショッピングセンター、役場等）へのアクセスが向上した。運搬する農作物のロスが軽減し、運搬費が安くなり出荷の効率が上がった。</p> <p>②公共交通機関（バイクタクシー、運搬用トラクター、トラック等）の料金が20-50%下がった。</p>		
(4) 持続可能性	<p>3年間の本事業を通じて11の会社組織が登録（手続き中）されたことが確認された。6グループがカウンティからの事業を委託されるなど、トレーニングを終了したグループが、行政組織等から事業を取得し少しずつ独立しつつある。</p> <p>ケニア政府が約束していた、コントラクター（道路建設業者）の認可を受けるための政府機関の研修費用が拠出されず、グループの代表者を研修に送ることはできなかった。しかし10グループが9つの会社登録を終え地元エンジニアから協力を得るなどしてNCA（建設公社）へコントラクターとしての認可の申請を行っている。トレーニングを終えたグループがコントラクターとして正式に登録されることが、今後の安定した事業取得のために不可欠であるため、ケニア政府に対し予算の拠出の働きかけを続けてゆく。</p> <p>グループの代表者が研修を受講し、正式にコントラクターとして登録、行政機関から道路補修の事業を請け負う事で、若者の雇用が創出されるとともに、住民による道路補修が持続的に行われ、住民の生活の改善に貢献する事ができる。3年間の活動をとおして、中央政府、事業を実施した地方政府など公的機関に「土のう工法」の認知度が飛躍的に高まり、現場での技術の有効性を証明する事ができた。今後より多くの地方道路の改善と、若者の新たな雇用創出を目的に政府機関との連携を強めていく。</p>		